

実際の保健師管理職（地域保健推進課長）に聞きました！

～これまでの東京都での保健師キャリア～

・新任期

<経歴>

日野保健所予防課、保健サービス課 7年

- ・指導保健師の下、地区担当と業務担当として保健師活動に取り組み、保健師としての基礎を学ぶ。母子保健、精神保健、難病対策を経験。
- ・入職後3年目及び6年目に出産、産育休を取得後、子育てをしながらの勤務であったが、地域の精神医療福祉関係者との勉強会を続け、作業所の立上げ支援、家族会設置をしたり、また、難病の方の在宅療養支援等に取り組み、保健師活動のやりがいを経験する。

・主任期

<経歴>

多摩保健所稲城保健相談所 3年
南多摩保健所地域保健推進室計画調整係 2年

- ・当時、少なかった24時間人工呼吸器を装着したALS難病患者の在宅療養に向けて関係機関とのネットワークづくりに取り組み、難病看護研究会等で報告。保健師の活動を関係機関に伝え、在宅療養への思いを共有していくことの大切さを実感する。
- ・新設された企画調整部門の保健師として保健所の機能強化に携わり、関係機関向け研修会、調査研究、課題別の取組など、人材育成やチームマネジメント、保健所職員としての公衆衛生活動の意義を学ぶ。

・課長代理期

<経歴>

国立公衆衛生院（現国立保健医療科学院）へ派遣研修 1年
多摩立川保健所地域保健推進室係長 1年
多摩立川保健所保健サービス課係長 3年
医療政策部医療安全課係長 3年
多摩府中保健所保健対策課感染症対策係長 2年
町田保健所保健対策課地域保健係長 2年
保健政策部保健政策課課長補佐（町田市派遣）3年
東日本大震災の際に福島県いわき市へ赴き保健師班として活動
保健政策部保健政策課保健指導調整担当係長 1年

- ・都版結核DOTS事業の立上げ支援、疥癬の集団発生やSARSパニックの対応等、企画担当、感染症担当として「地域における感染症予防のための連携の推進」に取り組み、感染対策を切り口とした保健師活動を経験。平常時対策の重要性を学ぶ。
市担当のリーダーとして、乳幼児の虐待予防に市保健師と取組み、市町村と保健所の重層的な連携の大切さを実感する。
- ・本庁の医療安全課で、都内医療機関への立入検査や医療安全支援センターの立上げに取り組み、医療安全の底上げや患者中心の医療の推進、多職種連携の重要性を経験する。
- ・町田市の政令市移行の際、保健所業務の移管と保健師の人材育成に取り組み、市保健師や事務職を含めたチームマネジメントや、保健師の継続的な育成に向けて、OJT（職場内研修）の重要性を実感するとともに、外部の関係機関の協力を得るための様々な連携・調整をする立場を経験する。

・管理職選考合格

地域保健推進担当課長

担当課長として、圏域各市の健康づくりの底上げに保健所内外の保健師及び多職種の方々と一緒にかかわれること、様々な機会を通じて全国の保健師と交流し、知見を得て、都の保健師の活動や育成に還元したり、自身も成長できる仕事であることを実感しています。